

委託事業実施内容報告書

平成23年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語教室の設置運営】

受託団体名 (公財) 神戸国際協力交流センター

1 事業の趣旨・目的 日本語の学習を必要としている神戸市内の外国人市民で、子どもを連れていて当センターが通常提供する日本語学習プログラムを利用できない親子を対象として、日本語教室を開催する。学習内容は日本語会話のほか、生活に必要な日本語とする。

2 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
5月17日	神戸国際協力交流センター (KIC)	足立千景 大城ロクサナ 後藤ひろ子 延原臣二 藤戸直美 玉田秀之 市村明子	・教室の目的と概要説明 ・開催日程の選定 ・対象者と年齢について ・会場設営について ・授業の項目について	・小学校低学年と未就学児のクラスに分けることにした ・親子一緒と別々のクラスを用意する
6月6日	神戸国際協力交流センター (KIC)	足立千景 大城ロクサナ 後藤ひろ子 玉田秀之 市村明子	・コース設定の確認 ・カリキュラムの検討 ・広報チラシ・申込用紙の検討	・各コースの時間数を確定した ・各コースの主講師を確定した ・ボランティア数・保育士数の暫定的に決めた ・広報チラシを確認した
6月27日	神戸国際協力交流センター (KIC)	足立千景 大城ロクサナ 後藤ひろ子 延原臣二 玉田秀之 市村明子	・記者資料提供の報告 ・申込状況の報告 ・各コースの調整状況の報告と検討 ・経費と必要備品の報告と検討	・申込状況を報告し、今後の重点コースについて確認した ・各コース別の調整状況を報告した
9月26日	神戸国際協力交流センター (KIC)	足立千景 大城ロクサナ 後藤ひろ子 延原臣二 藤戸直美 玉田秀之 市村明子	・開催報告 ・委員からの意見 ・意見交換 ・来年度の事業可否、方向性	・事務局からの開催実績、効果、課題を報告した ・委員からの意見をもらった

【写真】



3 日本語教室の開催について

① 講座名

『親と子が一緒に学べる日本語教室』（B, C, D, E, F コース）

② 開催場所

（公財）神戸国際協力交流センター会議室、神戸市立こうべ小学校

③ 学習目標

B コース：大人は子育てや生活に即した日本語を理解する。子どもは学校の学習補助や遊び

C, D コース：大人は子育てや生活に即した日本語を理解する。子どもは、日本での生活になじむための友達作りの日本語や習慣・遊びを学ぶ。

E コース：日本の文化を体験し、理解する。

F コース：C, D コースで学んだ内容を発展させ、より日本語を理解する

④ 使用した教材・リソース

- ・『外国人児童生徒のための支援ガイドブック』
- ・『ブラジル人と小学校教師のための学校生活まるごとガイドブック ポルトガル語訳つき』
- ・『中国人と小学校教師のための学校生活まるごとガイドブック 中国語訳つき』
- ・『みんなのにほんご』初級・中級および多言語版
- ・その他講師の手作り教材など

⑤ 受講者の募集方法

- ・（公財）神戸国際協力交流センターのホームページに掲載
- ・（公財）神戸国際協力交流センター内の掲示板にチラシを掲示
- ・神戸市教育委員会を通じて、市内小中学校及び市立幼稚園にチラシを配布
- ・各コミュニティにチラシ配布を依頼
- ・日本語学校等にチラシ配布を依頼
- ・外国人生徒の多い小学校に個別に生徒にチラシ配布
- ・外国料理店にてチラシを配布

⑥ 受講者の総数 47 人（延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。）

（出身・国籍別内訳 中国10人、インド9人、韓国5人、米国4人、
フィリピン4人、インドネシア4人、日本3人、スペイン2人、

イラン2人、イタリア2人、ペルー2人)

⑦ 開催時間数(回数) 48 時間 (全24回)

⑧ 日本語教室の具体的内容

回	開催日時	時間数	参加人数	国籍・母語(人)	教授者・補助者人数	内容
B1	7月21日 14:00 ~ 16:00	2時間	4人	イラン・ペルシャ語(2人) 中国・中国語(2人)	教授者2人 補助者2人	分別ごみの捨て方
C1	7月26日 10:00 ~ 12:00	2時間	12人	インドネシア・インドネシア語(4人) インド・ヒンドゥー語(4人) 中国・中国語(2人) 韓国・韓国語(2人)	教授者1人 補助者3人 (うち保育士2名)	自己紹介, 名札作り, 手遊び, 顔のパーツを覚えて福笑い, 病気のときの言葉
E1	7月27日 10:00 ~ 12:00	2時間	10人	インドネシア・インドネシア語(4人) スペイン・スペイン語(2人) インド・ヒンドゥー語(2人) イタリア・イタリア語(2人)	教授者1人 補助者6人 (うち保育士2名)	四季の行事, ひな祭り
D1	7月27日 14:00 ~ 16:00	2時間	15人	中国・中国語(7人) インド・ヒンドゥー語(4人) 韓国・韓国語(3人) インドネシア・インドネシア語(1人)	教授者2人 補助者8人	(大人)ごみの捨て方, (子供)挨拶の練習, 絵本, 手遊び, お友達づくりの言葉, 『ロンドン橋おちた』
B2	7月28日 14:00 ~ 16:00	2時間	1人	イラン・ペルシャ語(1人)	教授者1人 補助者2人	学校・保育園からの文書の読み方
C2	8月2日 10:00 ~ 12:00	2時間	15人	中国・中国語(4人) インドネシア・インドネシア語(4人) 米国・英語(2人) 韓国・韓国語(2人)	教授者1人 補助者2人 (うち保育士2名)	挨拶, 数字を学んでカレンダーづくり, 紙芝居, 音楽にあわせてゲーム「〇人組をつくろ

				インド・ヒンドゥー語（２人） 日本・日本語（１人）		う！」 色の名前
E2	８月３日 10:00 ～ 12:00	２時間	12 人	フィリピン・タガログ語（４人） インド・ヒンドゥー語（２人） インドネシア・インドネシア語（２人） スペイン・スペイン語（２人） イタリア・イタリア語（２人）	教授者１人 補助者６人 （うち保育士２名）	浴衣の着付け，こどもの日 うちわ作りに挑戦
D2	８月３日 14:00 ～ 16:00	２時間	19 人	中国・中国語（７人） 韓国・韓国語（５人） インド・ヒンドゥー語（４人） 米国・英語（２人） 日本・日本語（１人）	教授者２人 補助者８人 （うち保育士２名）	（大人）学校・保育園からの文書の読み方 （子供）エプロンシアター，言葉遊び，腹話術 交通ルール
B3	８月４日 14:00 ～ 16:00	２時間	２人	インド・ヒンドゥー語（２人）	教授者１人 補助者１人	請求書の見方
C3	８月９日 10:00 ～ 12:00	２時間	６人	中国・中国語（４人） 韓国・韓国語（２人）	教授者１人 補助者５人	絵本，エプロンシアター，歌遊び，人形劇，じゃんけん遊び， 形の名前でいす取りゲーム
E3	８月１０日 10:00 ～ 12:00	２時間	10 人	フィリピン・タガログ語（４人） スペイン・スペイン語（２人） イタリア・イタリア語（２人） ペルー・スペイン語（２人）	教授者１人 補助者７人 （うち保育士２名）	紙芝居，動物の折り紙，動物園ビデオ

D3	8月10日 14:00 ~ 16:00	2時間	16人	中国・中国語（5人） 韓国・韓国語（5人） インド・ヒンドゥー語（4人） 米国・英語（2人）	教授者2人 補助者9人	（大人）請求書の見方、 （子供）食べ物、動物の名前、旗揚げゲーム、風船あそび
B4	8月11日 14:00 ~ 16:00	2時間	4人	中国・中国語（4人）	教授者1人 補助者1人	大人）日頃わからないところを質問 （子供）ぬりえ、こまなど自由に遊ぶ
C4	8月23日 10:00 ~ 12:00	2時間	17人	中国・中国語（6人） フィリピン・タガログ語（4人） 米国・英語（2人） 韓国・韓国語（2人） インド・ヒンドゥー語（2人） 日本・日本語（1人）	教授者1人 補助者4人	絵本読み聞かせ、紙粘土で作ろう、爆弾ゲーム、「ふく・すう」でシャボン玉
E4	8月24日 10:00 ~ 12:00	2時間	4人	イタリア・イタリア語（2人） インド・ヒンドゥー語（2人）	教授者1人 補助者5人 （うち保育士2名）	お正月、コマ回し、羽根つき
D4	8月24日 14:00 ~ 16:00	2時間	20人	中国・中国語（6人） インド・ヒンドゥー語（5人） インドネシア・インドネシア語（4人） 韓国・韓国語（2人） 米国・英語（2人） 日本・日本語（1人）	教授者2人 補助者9人	（大人）保健所・病院について （子供）人形劇で「挨拶」「友達つくろう」 釣りゲーム
C5	8月30日 10:00 ~ 12:00	2時間	15人	中国・中国語（4人） フィリピン・タガログ語（4人） インド・ヒンドゥー語（2人） 韓国・韓国語（2人）	教授者1人 補助者4人 （うち保育士2名）	小学校見学

				米国・英語（２人） 日本・日本語（１人）		
E5	8月31日 10:00 ~ 12:00	2時間	3人	イタリア・イタリア語（２人） 日本・日本語（１人）	教授者１人 補助者６人	紙芝居，ハーモニカ，節分，季節の食べ物・行事のクイズ
D5	8月31日 14:00 ~ 16:00	2時間	6人	インドネシア・インドネシア語（４人） インド・ヒンドゥー語（２人）	教授者１人 補助者２人 （うち保育士２名）	小学校見学
F1	9月2日 10:00 ~ 12:00	2時間	6人	中国・中国語（２人） インドネシア・インドネシア語（２人） 韓国・韓国語（２人）	教授者１人 補助者２人	レベルごとのレッスン 『みんなのにほんご』等
F2	9月7日 10:00 ~ 12:00	2時間	14人	中国・中国語（５人） インド・ヒンドゥー語（２人） インドネシア・インドネシア語（４人） 韓国・韓国語（２人） 米国・英語（１人）	教授者１人 補助者３人	レベルごとのレッスン 『みんなのにほんご』等
F3	9月9日 10:00 ~ 12:00	2時間	14人	中国・中国語（５人） インド・ヒンドゥー語（２人） インドネシア・インドネシア語（４人） 韓国・韓国語（２人） 米国・英語（１人）	教授者２人 補助者３人	レベルごとのレッスン 『みんなのにほんご』等
F4	9月14日 10:00 ~ 12:00	2時間	15人	中国・中国語（４人） インド・ヒンドゥー語（２人） インドネシア・インドネシア語（４人） 韓国・韓国語（２人） 米国・英語（２人） 日本・日本語（１人）	教授者１人 補助者３人	レベルごとのレッスン 『みんなのにほんご』等
F5	9月16日 10:00 ~	2時間	11人	中国・中国語（２人） インド・ヒンドゥー語（２人）	教授者１人 補助者３人	レベルごとのレッスン

	12:00			人) インドネシア・インドネシア語（４人） 韓国・韓国語（２人） 米国・英語（１人）		『みんなのにほんご』等
--	-------	--	--	---	--	-------------

⑨ 特徴的な授業風景（２～３回分）

7月27日D「ごみの分別」



8月2日Cコース「カレンダーづくり」



8月3日E「浴衣をきてうちわ作り」



8月3日Dコース「腹話術で交通安全」



OC コース

前日に設営をする。子供がぶつかっても怪我をしない様、備品・物品の配置に注意する。赤ちゃんが誤飲する危険があるものも撤去。また、午睡用ベビーベッドや授乳コーナーも用意した。

当日 10 時前に講師、保育士が集まり、まもなく参加者が集まり始める。講師の挨拶に「おはようございます！」と元気な返事。新規参加者に簡単に自己紹介してもらい、カレンダー作りの材料を配る。講師と一緒に数字と色の名前の練習。見よう見まねで真似する親子も、十の位も余裕で言える親子もいる。小さな紙片に数字を自分で書いてもらい、テープのりで画用紙に張り付けていく。余白にシールを貼ったり絵をかいたりしてカレンダーが完成。「家にカレンダーが無いのでちょうど良かった。」とはある親のコメント。

紙芝居「はらぺこあおむし」の後は、ゲームに移る。音楽に合わせてみんなで歩きまわり、講師の「〇人組を作ってください！」の合図で一斉にグループを作る。どんどん人数が増えて最後は9人組グループを作るため皆きやあきやあと歓声をあげていた。

○Dコース

午前中にEコースが終了し大至急片付けて設営。会議室のパーティションを2枚取り払い、ドアを通らなくても行き来できるようにする。親子それぞれの教材を用意したりで運営者も走り回っている。

13時過ぎから講師、補助者や保育士など、スタッフが順次集まる。会場で当日の進行の最終確認。

14時前にベビーカーを押した親子が何組か姿を現す。会館前に館内へ案内し待機してもらい、準備完了後、会場内へ案内する。

開始時間を過ぎて一部受講者が集まらないが、講義を始める。始めは、親子一緒にスタートする。本日は人形師を招いてのパフォーマンス。エプロンシアターや人形劇など、易しい日本語をつかって身振り手振りで表現する手法には親もついつい見入ってしまい、日本語講師も「これはよい学習方法だ。」としきりに感心している。子供がなじんだところから、親は隣の教室に移動して、日本語教師と勉強を始める。

次は腹話術で交通安全のお話。「ちゃんと信号が青になってからわたってる？」人形がしゃべると子供たちは大興奮。人形を触ろうとしたり大騒ぎしている。人形の出番が終わった後も興奮冷めやらず走り回ったり大声を出したり、親の勉強部屋に走って行ったり落ち着きがない。

終了時間になり、次の案内をする。中には「まだ帰りたくない、遊びたい」と泣きだす子も…親子連れが帰っていき、センター内にも平穏が訪れた。

○Eコース

参加者が集まったところで、講師がプロジェクターを使って七夕まつりについて説明。日本語の不十分な参加者には通訳がサポートする。次は浴衣の着付け。各サイズ用意した浴衣を、服の上からボランティアが着付けをしていく。女の子の参加が多い会だったので、きれいな浴衣をきて嬉しそうだ。次に白地のうちわのうえに折り紙でつくったモチーフを貼り付け、オリジナルのうちわを作る。最後にみんなで記念撮影をする。

4 事業に対する評価について

① 当初の学習目標の達成状況

- ・ 保育所・幼稚園世代の親子が多かったので、ごみの分別や園の配付プリント・ノートの読解など今すぐ必要な知識を身につけてもらい、好評であった。
- ・ 子供に対してはまだ言葉を話す前の年齢の乳児や、母語を話し始める年齢の子など様々だったので、習得度には差がある。しかし日本の生活になじみやすいような挨拶・友達づくりの言葉を覚えてもらい、実際に授業中に友達になっている子たちもいた。
- ・ 文化コースでは季節に応じた日本の風物詩や遊びを実践形式で学んでもらった。日本語のレベルや子供の年齢開きがあったこともあり、理解度に差があったが文化風習の理解は深まった。
- ・ 結論としては、実践形式を取り入れたことにより、短期間ではあったが学習効果は高かった。日本語習得に着目すると、短期間学習だったので効果は限定的ではあるものの、参加者アンケートでは当センターの取り組みは評価されており、子育て世代の精神的サポートとしての効果は十分あったといえる。

② 学習者の習得状況

【大人】

- ・ B D F コースはほぼ 1 対 1 に近い形で学習できたので、細かいニーズや疑問点に答えることができ、学習効果が高かった。
- ・ ゴミの分け方、チラシの見方、銀行、病院など、日本語のみならず、生活上で必要知識をえられた。

【子供】

- ・ 習得は子供の年齢により差があるが、3 歳程度の年齢の子は俄然日本語に興味がいいたらしく、親に「これは日本語でなんていうの？」としきりに聞いてくるようになった。また「あそぼ」「いれて」「貸して」「いいよ」など、友達を作るための日本語を覚え、使ってみる場面もみられた。日本語であいさつができるようにもなった。
- ・ 普段は家で遊びがちな未就学児も、団体での生活や行動を学べた。

③ 日本語教室設置運営の効果、成果

- ・ 子供連れの来館者が目立って増加し、また子供連れで勉強できる教室についての問い合わせも増加した。
- ・ 日本語教室がきっかけで、日常の様々な相談にのったり関係機関を紹介するなど、相談機関としての当センターの機能もある程度周知できた。

④ 地域の関係者との連携による効果、成果 等

- ・ この教室が終わった後も継続して学習したい人に対して、地域の日本語教室を紹介できた。
- ・ 運営者・補助者にとっても日本語を教える貴重な体験を積むことができた。
- ・ 小学校見学によって、学習者が日本の小学校について具体的に知ることができた。

⑤ 改善点、今後の課題について

【現況と今後の課題】(a. b)

1. コースが多岐にわたっていたので、準備に労力を要した。コースと子供の対象年齢を絞って、最適な内容を用意したい。
2. 次回は十分な準備期間と広報期間が必要である。
3. 短期間に 60 時間の日程を確保するため、事務局・運営者の負担が過大であった。経常業務に支障をきたさない形態で実施すべき。また、既定の 60 時間から開催時間数をある程度増減できるような柔軟さがあれば、より参加者のニーズや運営規模に沿った形で開催できたと思う。
4. 運営・補助関係者が多く打ち合せや日程調整に苦労した。コース全体をコーディネートできる講師がさらに必要である。
5. 当初予定していた小学校の子供連れを想定した A コースは夏休みで帰国していたり、学校行事で忙しかったりと参加希望者が集まらず、コース中止となった。小学校に入ってから

は教育面でのサポートを受ける機会が多いようだ。逆に、未就学児・乳幼児をつれた親子に対する日本語教育の需要の高さを実感した。

【今後の活動予定、展望】(c)

今回と同じ形態での開催は困難であるので、上記の課題がクリアでき、さらに文化庁の事業募集業務がどのようなものになるか、また他の当センター事業計画との調整、その他の団体からの補助事業の可否、市からセンターへの財源対策など含めて総合的に判断して、今後の実施を判断したい。

今回の参加者はおもにニューカマーと呼ばれる新規日本在留者がほとんどで、習ったらすぐに使える実習形式の日本語教育は必要とされ、また効果的だった。次回開催するとすれば、今回とくに評価の高かった、「親子別々に学習」の時間を増やす形が望ましい。